

第3回 品川区スポーツ推進計画策定委員会 議事要旨

- 日時 令和2年2月5日(水) 18:30~20:20
- 場所 品川区役所第二庁舎6階261・262会議室
- 議題
1. 開会
 2. 議題
 - (1) 区民等アンケート調査結果からの課題について
 - (2) ヒアリング調査概要と結果からの課題について
 - (3) 庁内調査概要と結果からの課題について
 - (4) 今後のスケジュールについて
 3. その他
 4. 閉会
- 配付資料
- | | |
|-----|---------------------------|
| 資料1 | 第2回 品川区スポーツ推進計画策定委員会 議事要旨 |
| 資料2 | 区民等アンケート調査結果からの課題について |
| 資料3 | ヒアリング調査概要と結果のまとめについて |
| 資料4 | 庁内調査概要と結果からの課題について |
| 資料5 | 品川区スポーツ推進計画の策定スケジュール |
- 参考資料
- | | |
|-------|------------------------|
| 参考資料1 | 品川区のスポーツに関するアンケート調査報告書 |
| 参考資料2 | 品川区立学校 運動部活動の在り方に関する方針 |

■議題（詳細）

1. 開会

事務局より配付資料の確認を行った。

2. 議題

(1) 区民等アンケート調査結果からの課題について

事務局より資料2に基づき説明を行った。

- p2のスポーツを「みる」ことについて、「テレビ（再放送）を含む」の割合が高くなっているが、ケーブルテレビは含まれているのか。また、p6の【課題】にある「子どもの頃」というのは、何歳ぐらいを想定しているのか。
- 参考資料1「品川区のスポーツに関するアンケート調査報告書」のp24に元データを掲載している。今回の調査では、ケーブルテレビなどの放送局や番組を限定せずに尋ねている。また、今回の児童・生徒向け調査の対象は5年生と8年生となっており、それらの結果に基づいた課題のため、「子どもの頃」というのは、小学生及び中学生を想定している。
- ケーブルテレビ品川は地域密着型の放送局であり、積極的に活用していくべきと考えている。どのくらいの人がケーブルテレビ品川を視聴しているのか把握しているのか。また、私は日頃から園児と関わっているが、小学生の頃からよりも、その前の段階で運動やスポーツに親しんでいた方が良いのではないか。
- ケーブルテレビ品川の加入率は把握しているが、実際にどのくらいの人が視聴しているのかどうかということは明確に把握することが難しい。
- 確かに、幼児期から運動やスポーツに親しんでいる子どもは、小学校へ入学して1年生の時点で身体の動かし方を知っている傾向にある。幼い頃から運動やスポーツを好きになれるような取り組みを実践できると良いだろう。
- 日本スポーツ協会が、子どもが発達段階に応じて身につけておくことが望ましい動きを習得する運動プログラムとして、アクティブ・チャイルド・プログラムを開発し、普及を図っている。今後、計画の施策を検討する際に議論を重ねていきたい。
- 他の自治体と比べると、週1日以上スポーツ実施率が57.6%というのは高い印象を受ける。この結果について、何か考えられることはあるか。
- 区民が実施している競技種目をみると、ウォーキングの割合が多かった。品川区ではウォーキングイベントが盛んであり、自主的にウォーキングサークルを立ち上げる団体もいるため、そのような影響で実施率が高く出たと考えている。
- p3に「スポーツのできる団体」と記載されているが、スポーツ関連団体にもアンケート調査を実施したということか。
- アンケート調査は、層化二段無作為抽出法によるサンプル抽出に基づいて一般区民を

対象に実施しており、団体を対象にした調査ではない。

- もしも団体を対象にしたのであれば、民間のスポーツクラブ、任意団体など、どのような団体を対象にしたのか把握しなかったのだが、個人を対象にしているということで承知した。
- 社会教育関係団体のように、区に登録している団体であれば把握しているが、区に登録していない任意団体の詳細までは把握していない。
- 週1日以上スポーツ実施率は、全体のN数を分母とした割合を算出しているが、国の指標にもなっている週3日以上スポーツ実施率も同様に算出していないのか。
- 週3日以上スポーツ実施率は、全体のN数を分母とした割合を算出していないため、改めて算出することとする。

(2) ヒアリング調査概要と結果からの課題について

事務局より資料3に基づき説明を行った。

- 学校開放施設について課題が示されている。この内容をみると、体育館や校庭ではなく、空き教室のことを指摘していると推察できる。現状、体育館や校庭のような切り離し可能な施設のみ貸し出している。切り離し不可能な教室を貸し出せないのは、安全性が心配だからである。児童・生徒の情報や私物を守る責任もある。施設の分離化や施錠環境が整わないと貸し出せないため、課題として取り上げるのであれば、施設のセキュリティ面をクリアできないこととなるだろう。
- 資料3について、他の自治体でも会議に参加させていただいているが、ここまでポイントを得た資料は初めてであり評価できる。障害者団体には、知的障害者の子どもをもつ親を対象にヒアリングを実施しているが、子どもの頃からスポーツに親しむ機会が重要なのであれば、特別支援学校の肢体不自由児の状況も確認しておくとの良いのではないか。また、ボッチャの認知度が高くなっている中で、障害のある方もない方も一緒に活動して障害者スポーツの理解を深めていただきたい。障害のある方であっても、状況に応じてスポーツを選べるような環境づくりを進めていただきたいと考えている。
- ふくしまつりを区が開催しており、そのイベントで肢体不自由の方がスポーツを体験できる機会を毎年設けている。前は風船バレーを行った。ただ、なかなかその場に参加者が来ないというのが課題となっている。
- p2の「スポーツをする環境（施設・指導者等）」について、品川区はブラインドサッカーが会場となっているので活用できないのか。
- ブラインドサッカーの会場が品川区ではなくなってしまった。アスリートと触れあう機会はつくる予定であるが、なかなか活用というと難しいかもしれない。
- ブラインドサッカーは、3月に国際大会があつてオリンピック・パラリンピック準備

課が力を入れている。

- 品川区は日本ブラインドサッカー協会と協定を締結しているため、今後も継続して連携していく予定である。
- 区内の小中学生は、オリンピック、パラリンピックのいずれかの競技種目を観戦できる機会を設けてもらえているので、スポーツをみる機会は得られると考えている。
- ヒアリング調査の結果を計画に全て盛り込むことは難しいかもしれないが、今後、内容を検討する上で参考にしていきたい。

(3) 庁内調査概要と結果からの課題について

事務局より資料4に基づき説明を行った。

- p4の「区内で活動する上での制度を明確化」とあるが、どのようなことを指しているのか。
- 登録手続きの方法がいくつかあるため、わかりやすく周知していきたいということである。
- p3の「他の団体との調整が困難」というのはその通りだが、既存団体と新規団体の調整が困難ということだろう。また、「教員との役割分担等の調整」というのは、テクニカルアドバイザーとの連絡・調整の時間が確保されにくいという課題である。以前、ALTでも同様のケースがあった。それから東京都のオリパラ政策が2021年度までと言われて予算が減っている中で、一流アスリートを招聘するといった予算が削減されてくると、これまで進めてきた取り組みが継続できるのか。教育現場としては、急に予算を削減されるのは苦しい。
- テクニカルアドバイザーによる授業支援について、もう少し詳しくご説明いただけないか。
- 小学校と中学校で仕組みが異なる。中学校の場合は、体育の専門教員がいるので、ダンスなどの種目に特化しているアドバイザーが配置されている。授業計画も含めてアドバイザーにつくりあげてもらっている。教員は子どもと一緒に活動しており、全体の取りまとめを行っている。
- 小学校に体育の専門教員は配置されていないため、全ての教員が体育を教えなければならない。体育は授業の中で見本を示すことが求められるため、その見本を示す役割としてアドバイザーを配置している。文科省が体育においても教科担任制を導入することを検討しているが、個人的に、小学校の場合は、教科担任制に向かないと考えている。休み時間も含め、学校の中で、身体を動かす機会を一緒に担任がもつことで、日常的に身体を動かす習慣化につながると考えているからである。担任がテクニカルアドバイザーに授業の全てを任せているわけではなく、あくまでも担任主導で、一緒に授業をつくり上げる補助員としての役割をもっているため、資料4の表現は見直し

た方が良いだろう。

- 個々の事業の課題の整理だけではなく、事業横断的・全体的な課題を示すことができると、さらに課題がわかりやすくなるのではないか。例えば、国でも省庁をまたぐような会議体が生まれている。基礎自治体でもそのような取り組みが行われると、さまざまな課題に対応できるようになるのではないか。
- 品川区では地域センターで運動会を開催しているが、それらの内容は含まれていないのか。地域スポーツの機会となっており、含めても良いのではないか。
- 今回ご意見をいただいたので、担当課と調整させていただきたい。
- 地域スポーツクラブを運営する上で、学校と地域、行政の力でまわしている。今後、クラブがひとり立ちしていけるようになると良いが、なかなか難しいと考えている。そうすると行政に頼るケースが多くなると予想するが、人材不足が否めない。これから地域スポーツクラブの地盤をかためるのであれば、学校と地域、行政の人材・資金等の面でより連携を強化していきたいと考えている。
- 障害者水泳大会は入っているが、通年で実施している障害者水泳教室が含まれていない。このあたりはもう一度精査していただきたい。
- 今回のご意見を踏まえて検討させていただきたい。

(4) 今後のスケジュールについて

事務局より資料5に基づき説明を行った。

3. その他

野口委員より参考資料2に基づき、「品川区立学校 運動部活動の在り方に関する方針」について説明を行った。

4. 閉会

以上